

新岡垣風土記

第427回

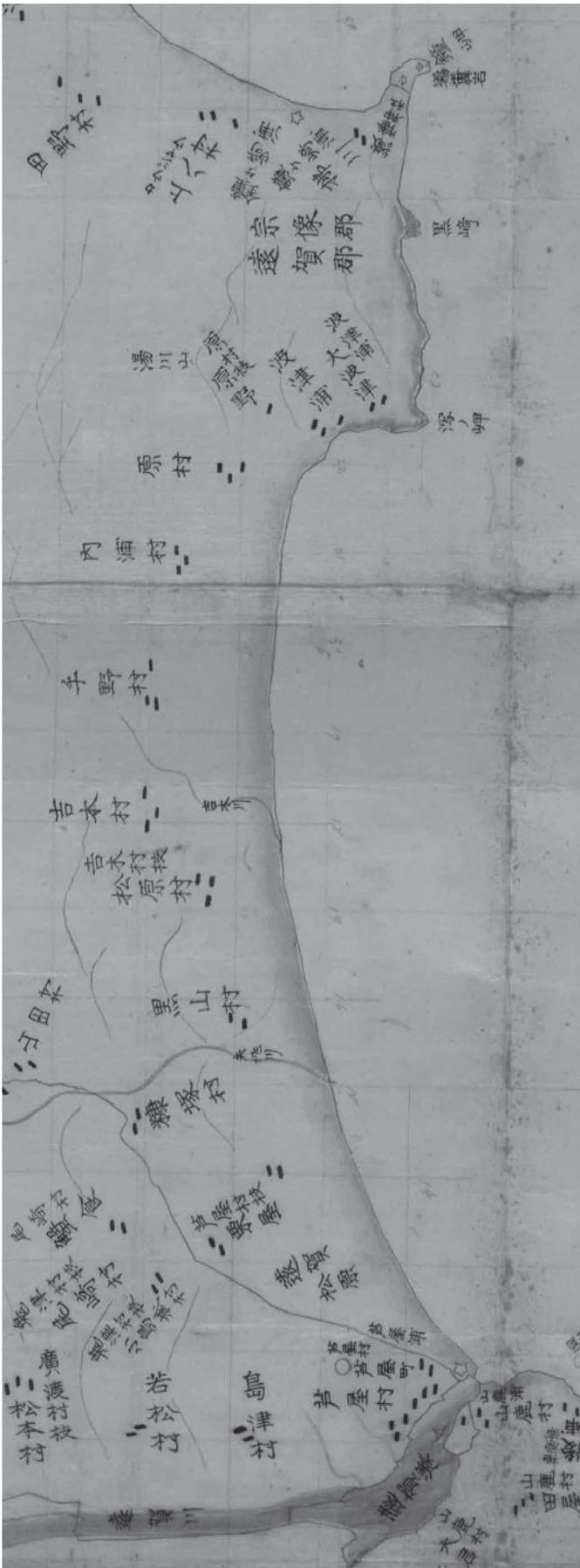
古文書で探る庶民のくらし

—大日本沿海輿地全図—

岡垣歴史文化研究会 羽山 健一

今回は、伊能忠敬の全国測量に
拠る大日本沿海輿地全図で、岡垣

町の海岸沿線を紹介する。
伊能測量隊が実測した海岸線や



▲大日本沿海輿地全図(大図)抄

主要道路は実線で表記され、河川の形状や集落位置は目測で配置されている。

芦屋から山田村に続く実線は、唐津街道である。芦屋から海岸沿いに進むと「遠賀松原」と表記されているが、これは三里松原のことである。

矢矧川は「矢作川」と表記されている。黒山村を過ぎると「吉木村枝松原村」になっているが、現在の元松原区である。その先の「吉木川」は、汐入川のこと。忠敬の測量日記に「吉木川、砂川、一十五間」と記載されている。手野、内浦、原を過ぎると波津

浦で、日記に「昼休、庄屋平十郎」とある。このとき測量隊は、波津浦の庄屋敷で休息している。「大波津」は波津の氏神の大年神社がある周辺のことだ。

その先に「海ノ岬」とあるが、海は瀉の異体字で、潮の干満で見え隠れする岬の意、波津城神社の前である。この辺りから地形が複雑となり、測量隊は難儀したようだ。宗像郡との郡境に「黒崎」とある。さらに進むと織幡神社や「鐘岬」と表記されている。「鐘岬」は万葉集で有名な「金の御崎」である。ここを廻ると、「鐘ヶ崎浦」(宗像市鐘崎)に到る。